



鎌田地区
令和2年5月1日現在
総人口 19,597人
(前年比 +139人)
世帯数 9,125戸
発行者 鎌田地区公民館
公民館報編集委員会

新任あいさつ

教育目標は「自主自立」



松本市立 鎌田中学校 校長 小松 直彦

4月に清水小学校から異動し、開校74年を迎える伝統ある鎌田中学校にお世話になっております。

本校の総合的な学習「KM Dタイム」では、地域の皆様の協力を得て、自分が生活する地域と直接関わる中で、生

徒が社会で自立して生きる力を培ってきています。他者を思いやる心が育ってきていることも、地域の皆様との関わりが大きく影響していることを感じます。

新型コロナウイルス感染症防止を踏まえ、生徒の命と健康を守ることを最優先に、生徒の「自主自立」に向けた学びが成り立つよう精一杯努めてまいります。よろしくお願いたします。

仲良く楽しい公民館を



鎌田地区 町内公民館 会長 横林 文雄

新年度のスタート早々、コロナ感染の影響で会合や行事の中止が続いており、いまだに収束の出口が見えませんが、しかし「朝のこない夜はない」ように、いつか落ち着きを取り戻す日を迎えます。

今までの鎌田地区町内公民館長会
館長会のもとまりの良さを残し、17町会の公民館活動の更なる発展に努力します。

新任職員紹介

お世話になります



高宮児童センター 館長 太田 武志



鎌田図書館 矢野 奈月美



鎌田地区公民館 古畑 和美



鎌田地区公民館 主事 川西 久美

高年齢福祉課から異動してまいりました。初めての異動、初めての公民館勤務で、緊張と不安でいっぱいですが、地域の皆さんとの繋がりを大切に、



鎌田地区 地域づくりセンター センター長 黒田 明浩

松本市内35地区の中で人口規模が最も大きな鎌田地区で、地域に根付いている伝統や文化を守りながら、地域課題の解決に向け、皆さまとともに「いきいきと安心して暮ら

し続けることができるまちづくり」を進めてまいりたいと思います。

新型コロナウイルス感染症予防のために、会議や催し等の中止が続いており、地区の皆さまとお会いしてお話をする機会がありませんが、この公民館報が発行される頃にはコロナ感染が収束に向かっていることを期待し、活動再開の際にはどうぞお気軽にお声掛けください。

公民館や地域に対するご意見ご要望をお聞きしながら、活気のある公民館活動ができればと思っております。現在は新型コロナウイルスの影響でお会いする機会がもてませんが、収束した折にはぜひ気軽に公民館にお越しください。

慣れないことが多く、至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いたします。

あれは、3月も半ばの頃のことだったろうか。マスクの高額転売が報じられ、モラルが問われていた中、甲府市の中学1年生の女生徒が、山梨県知事に6百余枚の手作りマスクを贈ったというニュースが流れた▼「多くの店を回ったが、マスクが買えない」と高齢の女性が薬局の店員に訴えている姿を見て、必要としていた人にマスクが届いていないと感じた彼女は、お年玉貯金を取り崩してマスク作りに必要な材料を購入したと話していた▼事実認知だけでなく、自分に引き寄せて考え、対処法を案出して実行に移した彼女の感性と行動力には、ただただ感服するばかりだ。困っている人の力になりたいというまっすぐな気持ちがまぶしい▼今やマスクを手作りする人や、彼女と同じように手作りマスクを寄附する人の輪が広がっている。共助の精神と自分のできることから始めようという発想の転換を、右往左往する大人社会に示した彼女の貢献は大きい。これからの社会の在り方に対する一つの種が蒔かれた思いがする。

(小山淳一)

食育講座

「松本一本ねぎ」を育てよう



みんなで手分けして 1200 本の苗植え

松本の伝統野菜「松本一本ねぎ」を栽培する食育講座が今年も公民館の文化委員会主催で開催しました。

苗植えから収穫、料理方法について学ぶ体験型の講座で、初回の 4 月 23 日には畑を提供いただいた鎌倉むつ子さん(両島)の指導を受けながら、親子連れなど 16 人の参加者が畑を耕して畝をつくり、約 1200 本の苗を植えました。



秋の収穫が楽しみだなあ

野外での講座とはいえ、コロナ感染防止のため全員がマスクをつけて、適度な間隔を保ちながらの作業でしたが、このあと夏には松本一本ねぎの特徴である「植え替え」作業を、秋には大きく育ったねぎを収穫して美味しい料理をつくり会食する予定です。

街かどの話題 146

小規模保育園が高宮中に開園



学校法人・池田学園は、松本市南部地域に保育施設を設置したいとの市の公募に応じ、高宮中に 3 歳未満児を対象にした小規模保育園「おひさま」を 4 月に開園しました。

定員は 18 人で、0 歳児 4 人、1 歳児 6 人、2 歳児 6 人の計 16 人が鎌田地区など市南部の地域から通園しています。10 人の保育士で対応しており、室内はワンフロアを本棚や物品庫で仕切り、子どもたちの挙動がどこからでも分かるように配慮されています。



小規模保育園「おひさま」



ワンフロアの園内で遊ぶ子どもたち

角尾豊子園長は「小規模のメリットを活かし、家庭的な雰囲気大切に子どもたちが笑顔で過ごせ、それぞれの個性を大事に育てたい。近くに児童センターもあるので連携を図りながら、地域に愛される園を目指したい」と語ってくれました。

また、小川俊文高宮町会長は「町内に保育園ができたことは、少子化対策や女性の社会進出にもつながる。子どもたちの成長を温かく見守っていききたい」と話しています。

各地で待機児童問題について取り組みがなされています。このような保育施設が地域に根付き受け入れ枠がさらに増えていけばいいと思います。

公民館からお願い

新型コロナウイルス感染防止に向けた市の対策方針にそって、5 月 22 日(金)より鎌田地区公民館の利用を再開しています。ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大が終息したわけではありません。公民館での会議開催やサークル活動利用にあたっては、3 密空間を避けるなど感染防止対策を講じていただくようお願いいたします。

鎌田地区の歴史 ⑨



ユニークな円形建物の森永ミルクコーナー

(国道 19 号線の鎌田交差点・昭和 52 年)

森永乳業松本工場は昭和 42 年に敷地内へ「ミルクコーナー」を新設。開店当初から建物のユニークな形が市民の間で話題となり、昭和 54 年からは「ファミリーレストラン森永」として営業を続けていたが、平成元年に閉店して建物も取り壊しとなった。写真右奥の給水塔は現在も残っており、鎌田地区を示すランドマークともいえる。